



健康の輪



編集●全国結核予防婦人団体連絡協議会事務局(結核予防会普及広報課内) 題字●初代会長 廣瀬勝代

ごあいさつ

公益社団法人 全国結核予防婦人団体連絡協議会
会長 中畔 都舎子

結核予防婦人会会員の皆様、明けましておめでとうございます。

2013年新しい年が始まりました、皆様如何お過ごしでしょうか。

さて、2010年の結核予防関係婦人団体中央講習会から開始した「結核および健康に関する意識と行動調査」には、地区別幹部講習会及び講演会等で会員の多くの皆様にご協力頂き、感謝申し上げます。

結核予防会総裁におまとめ頂きました一部分を「健康の輪」でご報告させていただきます。大変中身の濃い結果が示唆されており、今後私達婦人会の講習会及び結核を中心とした健康に関する知識の普及啓発活動に大いに役立てていけるものと喜ばしく思っております。改善するところ、新しく創造するところ等、会員の皆様と協議しながら今後の活動に役立てて行くことをお誓い致します。



結核予防婦人会の 皆さまへ

公益財団法人 結核予防会
総裁 秋篠宮紀子

日々、皆さまが結核予防活動に携わっていらっしゃることに深く感謝申し上げます。

皆さまがご存じのように、日本では現在一年間に2万人以上が新たに結核を発病し、2千人以上が結核によって死亡しています。日本において結核は決して過去の病気ではなく、現在でもいくつもの結核に関連する課題があります。

このような状況の中で、結核予防婦人会の皆さまが力を合わせて、結核をなくし、人々が健康な生活を送るために進めていらっしゃる活動は、大変意義深いものでございます。

一方で、結核予防関係者の多くは、日本において一般の人々の結核に対する理解が低下していると案じております。しかし、結核に関する意識等を把握するための近年の調査は、医療従事者などを対象としたものに限定されています。そこで、結核予防活動推進のための基礎資料を得るために、この数年間にわたり、結核予防婦人会と結核予防会とでより広範囲の方々を対象としたアンケー

ト調査を実施いたしました。

この調査では、中央講習会や全国の地区別講習会に参加された多くのご婦人方がアンケートにご回答くださり、いくつもの貴重な発見・示唆を得ることができました。心より厚く御礼申し上げます。

皆さまよりご回答いただきました調査結果は、中央講習会の折に簡単にお知らせしておりましたが、このたび、本誌上にて少し詳しくお伝えいたします。

今回は〈日本の結核問題に対する認識〉と、〈BCG接種の効果への理解〉についてでございます。

■ 日本の結核問題に対する 認識について

アンケートには、「あなたは日本の結核問題についてどう思いますか」という質問がありました。回答は、「問題が残っている」、「多少問題がある」、「ほとんど問題にならない」、「既に解決した問題である」、「よくわからない」、「その他」という6つの選択肢から1つ選んでいただきました。

その結果、「問題が残っている」という回答が30.0%、「多少問題がある」が25.0%であり、結核について何らかの問題があると認識している人は55.0%と半数を超えていました。その一方で、「よくわからない」とする回答が37.2%ありました。(図1)

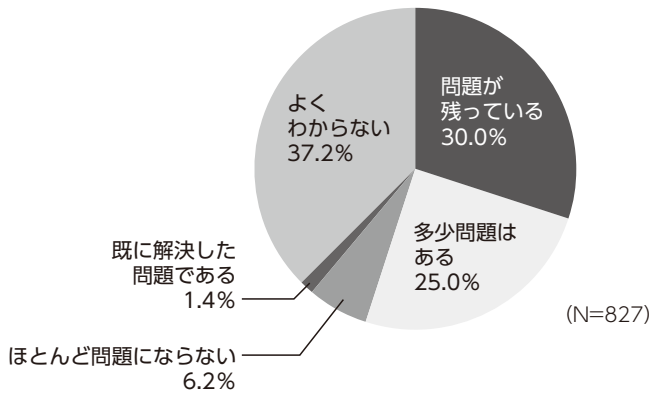


図1 日本の結核問題に対する認識

過去の調査結果と比較してみると、1980年に結核予防会がおこなった全国調査では、「まだいろいろな問題が残っていると思う」とする回答が21.3%、「まだ多少問題はあると思う」が37.4%であり、合わせて58.7%が結核問題を認識していました。他方、「よくわからない」と「不明」を合わせた割合は、17.6%でした。

日本の結核問題について「わからない」とする人の割合の推移をみると、1980年の17.6%に対して、本調査では37.2%と1980年の2倍余りに増えています。1980年からのおよそ30年間に、結核罹患率は、1980年の人口10万人対60.7から2011年の17.7へと約3分の1以下に減少しました。これは喜ばしいことですが、結核が必ずしも身近ではない病気になってきたのにつれて、日本に結核問題があるかどうか「わからない」と答える人の割合が増加する傾向にあるようです。

現在の日本には、新たに結核を発症した人の半数以上が70歳以上の高齢者であること、若者の結核も注意が必要であることや、大都市における結核罹患率が全国平均に比べて相対的に高くなっていることなど、検討を要する結核問題がいくつもあります。一般の人々にも、この日本の結核問題に気づいていただけるよう結核予防活動を進めていくことが大切ではないでしょうか。

■ BCG接種の効果への理解について

また、BCG接種の効果についてお尋ねしました。BCG接種に「結核に対する治療」「結核に対する免疫力をつける」「結核菌の吸入を防ぐ」という効果があるかどうかを、各々に対して「ある」・「ない」・「わからない」という選択肢から選んでいただきました。

その結果、BCG接種には「結核に対する免疫力をつける」効果が「ある」という正解を8割以上の回答者が選んでいました。

その一方で、「結核に対する治療」の効果や「結核菌の吸入を防ぐ」効果があるとする誤った回答も、それぞれ4割程度ずつありました。「結核に対する免疫力をつける」効果が「ある」とし、「結核に対する治療」「結核菌の吸入を防ぐ」効果は「ない」とする正確な回答をした割合は15.4%でした。講習会や講演会への

参加者でも、BCG接種の具体的な効果については理解が難しいようです。(図2)

BCG接種は、結核菌による発病を予防するため、または発病しても軽症で抑えるための予防接種です。乳児は結核を発病すると重症になりやすいので、BCG接種による予防がととても大切です。接種後、約1か月で十分な免疫力が付き、十数年予防効果が持続するといわれています。現在、日本では生後6か月未満の乳児に接種することになっています。

BCG接種をしていても、体力が低下し、免疫力がととても弱くなると結核を発病してしまう可能性があります。日頃から健康を維持して体力や免疫力を保つことが大切です。

この調査結果を受けて、2012年の「第16回結核予防関係婦人団体中央講習会」と、2012年のいくつかのブロックの地区別講習会で、BCG接種についての講義がおこなわれました。今後も、講習会等でBCG接種についての説明を続けていく予定であると伺っております。

紙面の都合上、限られた内容のご報告となりましたが、次号以降も、婦人会の皆さまのご関心に合わせて、調査結果と関連する事柄をご紹介します予定です。

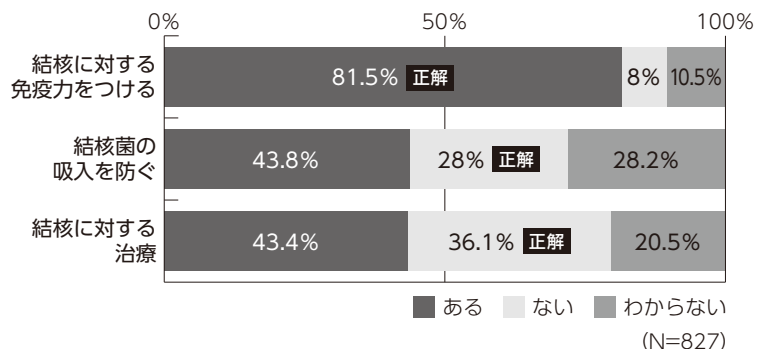


図2 BCG接種の効果への理解

平成24年度地区別結核予防婦人団体 幹部研修会(5地区)開催

第45回北海道家族の健康を まもる講習会

平成24年7月6日(金)、7日(土)
於：国立大雪青少年交流の家

～結核はみんな知ってる・忘れてる～
～北海道がん対策推進条例を学ぶ～

北海道健康をまもる地域団体連合会 会長 齋藤 芳子



北海道各地から87名が参加し、オリエンテーションの後ハイキング、パークゴルフに分れ、屋外スポーツに汗を流しました。真夏の太陽が容赦なく照り付け、樹々を渡る風を感じ、雄大な大雪連峰の大自然の爽快感に満たされました。

夕食後、全体交流会を開催し、参加団体の工夫した健康づくり事業や、健康まつりとまちづくりの効果が発表され、食改善グループのデモンストレーションは会場を楽しく盛り上げました。

2日目、結核研究所対策支援部長小林典子氏による「複十字シール運動の現状と先進的取組事例」の講演を拝聴し、世界に目を向けた社会奉仕活動である事、広報活動の効果、官民一体の活動、他団体との連携等について研修致しました。2講目「北海道がん対策推進条例」について、北海道保健福祉部健康安全局、がん対策健康づくりグループ伊藤直人氏の講演を拝聴し、がん制圧のための行政と患者・一般市民・医療関係者の連携をしっかりと結成して推進する健康づくりは、まず検診と予防を第一に一人ひとりが実践

する事を確認した貴重で有意義な2日間の研修を終了致しました。



東北地区

青森県地域婦人団体連合会 会長 向井 麗子



平成24年11月8日～9日「東北地区結核予防婦人団体幹部研修会」を「アップルパレス青森」(青

森市)で開催しました。

晩秋の青森は小雪がちらつき、講師の佐々木結花先生、理事・事務局長山下武子先生はじめ、東北各県から参加の皆様は難儀な道中だったろうと恐縮致しました。

開会式は、佐々木義樓理事長の挨拶、青森県副知事佐々木郁夫様、青森市長鹿内博様、東京の公益財団法人結核予防会事業部顧問及び公益社団法人全国結核予防婦人団体連絡協議会理事・事務局長の山下武子様御祝辞を頂き、県内外の関係者、幹部会員150名で盛大に開催できました。

[特別講演]

演題 「最近の結核患者から学ぶこと」～婦人会への期待～

講師 公益財団法人結核予防会
複十字病院呼吸器内科診療主幹 佐々木結花

臨床医として超御多忙な日々をお過ごしなさりながら、「患者から学ぶ」というご講演に私共は感動しました。結核が国民病と恐れられた時代から脱却はしたが、結核罹患率は先進国と比較して高いのが現状である。なぜ結核患者が速やかに減少しないのか、撲滅できないのか、諸々の要因を患者側からと医療側の両面から具体的に話を頂きました。高齢者の患者も見過ごせない現状も踏まえて、結核の対策は、病気を正しく認識し、予防の啓発活動が重要であり、その為に結核予防婦人会の協力が不可欠であると結ばれました。

シンポジウムは、「健康受診率を上げるために」のテーマで、各県の取り組み状況を発表し、コーディネーターの山下武子様から、地域の実情に添った特色ある活動の称賛と

今後の期待を述べてまとめていただきました。

懇親会は、お国自慢のアトラクションで賑わい、青森ネブタ囃子が会場を盛り上げ、結核予防運動を一層強固なものにしたい心の輪が幾重にも渦巻き、研修会に花を添えました。



東海・北陸地区

福井県健康を守る女性の会
会長 宇野 千代子



今年も複十字シール運動月間が始まります。

また昨年は、東海北陸地区結核予防婦人団体幹部研修会開催県を控え、私達健康を守る女性の会は、役員会及び研修会を開催し、啓発活動等について話し合いました。会議に引き続き

研修会を開催、会員も多く参加し「結核の基礎知識について」と題し講演が行われました。

現代若い人達は、結核は過去の病気で現代社会の病気ではない！と思っている人も多くいらしゃいます。

昭和20～30年代は、「結核は恐ろしいし国民病で感染したら死に至る」もので、年間10数万人に及び死亡原因第1位でしたが、現代は、医療や生活水準が向上し、早期発見、早期治療により完治する時代ですが、今尚、毎年新規登録患者が出ており、重大な感染症である事を忘れてはならないと思います。

「一枚のシールが世界を結ぶ」のビデオも上映されました。1枚のシールが仲間意識を高め世界の人々の命を救い、明るい社会づくりの手助けになる、素晴らしい事だと思います。とても良い研修だったと思います。

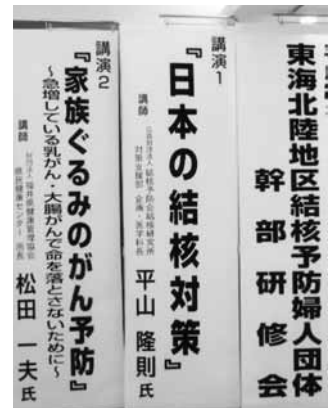
昨年も支部長様と知事表敬訪問を行いました。お忙しい中、時間を作って頂き感謝しております。「福井県の現状は…？」とお聞きになりましたので、患者の高齢化や若年代にも伸びつつある事、複十字シール運動の目的や募金の使途について、また女性の会の活動についてお話し、今後の目標達成のために「官民一体となり活動する事で、輪を広げ盛り上がる事も出来るのでご協力を」お願いしました。「がんばってください。」と励ましのお言葉もいただきました。

美しい紅葉と青空に恵まれた11月20日～21日福井県において、東海北陸地区結核予防婦人団体幹部研修会が開催され、中畔都舎子会長様はじめ各県より参加をいただき、親しく交流、情報交換を持つことができました。

研修会には、地域の会員も多く参加できました。「日本の結核対策」、「家族ぐるみの癌予防」のご講演。

結核予防関係婦人団体中央講習会受講者の報告など、参加者は結核について多くの事を学ぶことができました。

健康で社会生活が出来ることに感謝し、学んだ事を今後の活動に生かしていきたいと思ひます。



近畿地区

滋賀県地域女性団体連合会
会長 中野 璋代



近畿地区結核予防婦人団体幹部講習会を、平成24年9月5日(水)～6日(木)の両日にピアザ淡海滋賀県立県民交流センターで開催いた

しました。

近畿各県よりたくさんの皆様が御参加下さり大変有意義な講習会でしたし、また夜の懇親会でも楽しいひとときを過ごすことが出来て「近畿は一つ」と云う思いを新たに致しました。毎年の交流会は各県代表が地域の活動を発表して頂いておりましたが、今回はグループに分かれて各々の意見を聞かせて頂き、それを代表が発表することにしました。

どの方も結核予防には強い関心があり各地域で創意工夫しておられることに深い感銘を受けました。

また、講演①「効果的な啓発活動とシール募金の増加策について」山下武子様のお話と講演、②「BCG接種 小児結核の決め手」森亨様のお話は会員一人一人が直接聞かせて頂くことが出来て結核予防の意義を再確認すると同時に意欲を燃やす原動力となった事と思えました。

今後も近畿各地を廻ることによって、その県の会員が一人でも多く聞かせて頂く機会があると云うことは大変うれしいことです。

この会を開催するにあたり、全国の結核予防会始め滋賀県の結核予防会や関係者各位の温かいご支援とご協力に心より感謝致しております。ありがとうございました。



九州地区

大分県結核予防婦人会 会長 後藤 ミツノ



平成24年10月15日、16日、九州地区結核予防婦人団体幹部講習会が、大分県大分オアシスタワー

ホテルにおいて「深めよう結核の理解」をテーマに開催されました。

最初に結核予防会結核研究所の小林典子対策支援部長より『結核!? でも心配しないで』の講演があり、結核の症状やどうしたら予防できるか等を、分かりやすく説明されました。

次に結核予防会結核研究所 名誉所長の森亨氏の「BCG接種 小児結核予防の決め手」の演題で講演があり小児結核は感染するとすぐに発病しやすく、重症の病気になりやすい小児結核の特性などのお話があり予防接種の必要性を再認識しました。

最後に大分県立呼吸器外科の赤嶺晋治先生が「肺がんについて」講演され、現在肺がんは日本人におけるがん死亡数の第一位の疾患であり、年間7万人の方が亡くなれているとのお話で、これから如何にして肺がんを減らすかが大きな課題だと思えました。

そして、患者の精神的肉体的苦痛を和らげるための緩和ケアの必要性も強く感じました。

シンポジウムは佐賀県、熊本県、大分県の代表者の方々から事例発表がありました。各県でさまざまな取り組みがなされ、結核撲滅のため努力している姿がうかがえ結核予防婦人会の底力を感じました。

そして、日本は結核の『中まん延国』で国内最大級の感染症であることを多くの人々に啓発し、認識を持っていただくことが私たちの大きな使命だと思えました。



複十字シールキャンペーン活動

複十字シール運動 キャンペーンに参加して

千葉県連合婦人会
会長 飯田 和子



9月24日から30日の結核予防週間に先駆けて9月22日(土)、少し冷たい風の吹く中、そごう千葉店前で9時半から12時まで、予防財団の職員と婦人会の5名、そしてママさんブラスを時折加えながらキャンペーンを行いました。

電車に乗り降りする方やデパートに向かう方にパンフレットと啓発グッズをお渡しして結核予防を訴えました。

初めは何度パンフレットを手渡してもなかなか受取って貰えず、少し悲しい気持ちでした。そのうち運動部の高校生とお話をする事ができました。学校で習った事があると興味を示し、募金をして頂きました。少しでも若い人に関心を持って頂きたいものです。

多額の募金をして頂いた中に、娘さんが24歳の時、仕事が忙しく体調を崩し、咳がひどくなり、たまたま診て頂いた医師に結核と診断されびっくりしましたと話し始められました。『早い発見ということで3カ月程で退院できました。誰にも話すことができなく、今やっと話すことが出来て、胸のつかえがとれました』とのことでした。『早く診ていただいたお陰で、早く治り、とても感謝しております』と話されました。シールをお渡し「年賀状や封筒に貼っていただいて、少しでも多くの方に結核を知ってもらおうと良いですね」とお願いしました。

結核は過去の病気ではないこと、感染症であることを忘れないで、私たちの活動を広く知ってもらうよう努力したいものです。



結核予防複十字シール募金運動 キャンペーンに参加して

静岡県結核予防婦人会
副会長 鈴木 節子



9月22日午後、休日のにぎわう静岡市内のショッピングセンターにて「複十字シール運動キャンペーン」が行われました。

静岡県結核予防婦人会会員、静岡市、財団法人静岡県結核予防会静岡支部の皆様と協力して、ショッピングに訪れるお客様に、「結核の常識」を中心にポケットティッシュや絆創膏などをセットした啓発資材を配布し、風船も配りながら、「結核」に対する知識を深めていただくことを呼びかけました。シールぼうやの着ぐるみも登場し、子どもたちに囲まれながら館内を歩きまわりました。ご家族連れも多いので、家族で「結核」について考えてくださるようお話もいたしました。

最近の結核対策において思うことは、「結核」をもっと身近に感じることができるような啓発方法はないだろうかということです。「結核」のみならず、様々なことを他人事と考えがちな現代社会において、なかなか難しいことであるとは思いますが、しかし、だからこそ、こんな時代であるからこそ、「結核」についての正しい理解が大切だと思うのです。

当婦人会は、県内各地に16支部設け、各支部において、その規模に合わせた普及啓発活動をしております。皆、多忙の中、紙芝居やカルタ、人形劇など普及啓発方法を工夫し、頑張っております。

今後も、一般の方々に訴えかける普及啓発方法とはどのようなものなのか、当会内でも、情報交換をしながら、さらなる発展をめざして活動していきたいと思っております。



鳥取県健康を守る婦人の会 会長 井勝 道子



私達、鳥取県健康を守る婦人の会は、食生活改善推進員連絡協議会が母体となり、全国結核予防

婦人団体連絡協議会に加入し、複十字シール運動期間には、知事への表敬訪問、そして結核予防週間に知事ご夫婦と共に、複十字シール募金キャンペーンを実施しています。

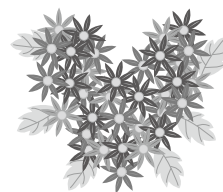
今年の知事表敬は、鳥取県において開催された「国際まんが博」の期間中の8月7日(火)に行いました。次に9月23日(日)に県内3ヶ所で街頭募金キャンペーンを実施し、顧問の平井りえ知事夫人、婦人の会会員38名と県職員、支部職員11名の総勢50名で、結核は過去の病気ではなく県内でも高齢者に多い状況についてチラシ等を配布し啓発しました。

また、会員には今年3月の全体研修会において、結核予防会顧問の島尾忠男先生をお招きし「結核の四方山話」を拝聴し、結核の発生や死亡率と経済状況が密接に関係していることなど学び大変有意義な講演でありました。

今後とも食生活改善推進員の経

験を生かし、世代を通した生活習慣病予防、正しい食習慣を育て健康で明るい社会に貢献できるように地域の活動をとおり発信していきます。

なお、結核を減少させるには、ゆるみなく対策を進めて行くことが大切であり、今後も複十字シール運動キャンペーン等を通じ撲滅に向けて活動して行きたいと思っております。



第16回日本健康福祉政策学会・学術大会

東京家政学院大学・教授・公衆衛生学 学術大会 大会長 松田正己



本学術大会は、東京家政学院大学現代生活学部健康栄養学科が千代田区三番町へキャンパスを移してから2年目を記念し、2012年11月17～18日に開催されました。また、東日本大震災後の社会のあり方を考えるため、「地域の再生、「つながり」の回復～今、私たちに問われていること～」というタイトルで健康栄養学科セミナーを同時に開催しました。趣旨は、住民自身が東日本大震災後の社会のあり方や、食生活や健康生活を見直し、結核対策を含

め健やかに生きるための方法を見いだす契機となるものです。

内容は、①大西氏の震災の写真・講演、②タイ・コンケン大のカニタ看護学部長の特別講演、③8つのワークショップ(障害、都市、生と死、福島、放射線、国際的な地域政策の新動向、政策づくり、災害と栄養)、及び④26都道府県から50題のポスター発表がなされました。⑤更に、5名のパネリスト(墨田区・秋田管理栄養士、パル・高橋部長、西口教授、南相馬市・大石保健師と岡崎管理栄養士)によるシンポジウムを行いました。ポスターでは本学会の15周年を記念して、日本の健康福祉を振り返る企画で、私が以前、勤務していた静岡県立大学看護学部の江口・長谷川さんと静岡県健康福

祉部の土屋保健師から、健康寿命日本一に至る静岡県の15年間の歩みなど、興味深い報告がなされました。シンポジウムでは東日本大震災の当事者の報告や、協同組合による地域住民等の食生活や栄養改善への支援を通じて、人々が健やかに生きるためには、結核対策を含め社会的な支え合いのシステムが重要であることが確認されました。

学内外の参加者が500名(内、被災者38名)で、内容も充実したものであるとの好評を多くの参加者から頂くことができました。本学学生にとっても貴重な講演を聴き、質疑に参加できる体験の場となりました。関係者の皆様のご協力に心よりお礼を申し上げます。(本大会は昨年度・滋賀県、来年度・鳥根県で開催予定)

心の絆プロジェクト2012 参加報告

公益財団法人 結核予防会
普及広報課長 市川 雄司



本年7月に来年度からの健康日本21（第2次）が厚生労働省より発表され、結核予防会でも重要な事業として位置づけているCOPD（慢性閉塞性肺疾患）の認知度向上について、初めて数値目標（10年後に国民全体の80%にまで高める）が示されました。

当会でもCOPDの認知度向上に努めるべく、心の絆プロジェクト2012においてハイチェッカーを使用した肺年齢体験会を実施しましたので報告致します。

このプロジェクトは、昨年の東日本大震災の発生後、産官学民が参加しての被災3県への医療支援活動を行うことで、復興支援の協力を継続的に行っていく趣旨で立ち上がったプロジェクトになり、本年は2年目を迎えました。全国結核予防婦人団体連絡協議会が共催、結核予防会が後援しており、今回は初めての参加となりました。（なお11月23日の朝日新聞全国版に3面にわたり、採録が掲載されました）

今回は岩手県宮古市にて9月23日、福島県郡山市にて9月30日、宮城県気仙沼市にて10月6日に開催され、当会では肺年齢測定体験として希望者の方に無料で測定を実施しました。測定人数等は以下

下のとおりです。

- 9月23日（日） 測定人数 56名
（男10 女46）
- 9月30日（日） 測定人数 64名
（男17 女47）
- 10月6日（土） 測定人数 62名
（男26 女36）

「肺年齢の測定」を体験する機会があまりないためか、多くの皆様に測定いただきました。今後もCOPD認知度向上を図るために、このような健康イベントには積極的に参加して行きたいと思っております。



グローバルフェスタ JAPAN2012 開催

10月6日は「国際協力の日」

平成24年10月6日（土）・7日（日）東京都日比谷公園にてグローバルフェスタJAPAN2012が外務省・JICA（独立行政法人国際協力機構）・JANIC（特定非営利活動法人国際協力NGOセンター）共催で開催され、約10万人の方が来場されました。

政府は10月6日を「国際協力の日」と定められており、国際協力への国民の理解と参加を呼びかけています。

今年のグローバルフェスタのテーマは「Think Global, Think Green: 世界を変えよう。未来をつくろう。」です。

結核予防会も2日間にわたり出展し、結核の知識の啓発のためリーフレット配布や、テントブース内に国際協力活動のパネル展示、そして今回は、東日本大震災の被災地への支援活動報告のパネルも展示を行いました。

来場者の方に複十字シール運動について説明し、今後も結核対策を国内外で行う目的のために募金のご協力をお願いいたしました。（公益財団法人結核予防会 普及広報課）

そして、これからも「結核のない明日をつくるために」活動を続ける結核予防会と共に、全国結核予防婦人団体連絡協議会は結核制圧のために歩み続けます。



第13回健康日本21全国大会

1に運動 2に食事 しっかり禁煙 ～健康寿命をのぼそう!～

平成24年10月19日（金）東京大学伊藤謝恩ホール（東京都文京区）にて第13回健康日本21全国大会が厚生労働省・健康日本21推進国民会議・健康日本21推進全国連絡協議会・すこやか生活習慣国民運動実行委員会の主催で開催され、約300人（国民一般、行政関係者、健康増進関係団体他）が参加者されました。

全国結核予防婦人団体連絡協議会は結核予防会と共に「肺年齢体験会」と題して出展し、ハイチェッカーを使い肺年齢測定の実施をしました。

「肺年齢体験会」をきっかけに

COPD（慢性閉塞性肺疾患）を知っていただくよい機会となり、多くの方に生活習慣病の予防についての

メッセージを発信する大会となりました。（全国結核予防婦人団体連絡協議会 事務局）



肺年齢体験会の様子

複十字シールが シールコンテストで3年連続優勝

第43回国際結核肺疾患予防連合（IUATLD）肺の健康世界会議（マレーシアのクアラルンプールにて開催）のクリスマスシール・コンテストにおいて、安野光雄先生の平成24年度複十字シールデザインが3年連続優勝いたしました。



表彰状

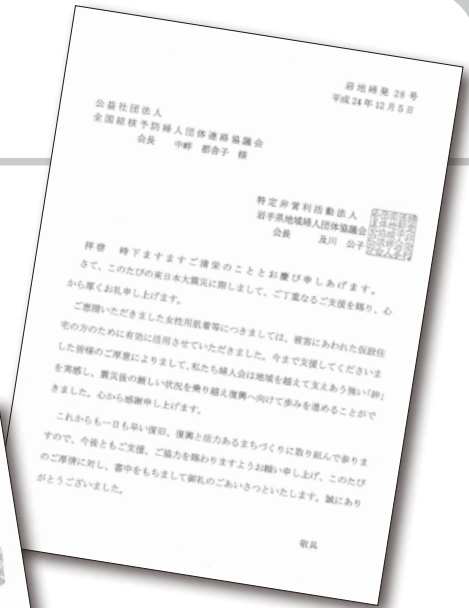
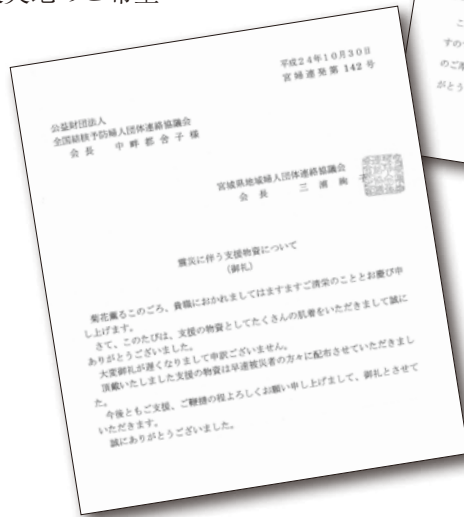


♪2012年 複十字シール♪

東日本大震災による被災地へのご寄附ありがとうございました

昨年の9月、社団法人大阪府エイフボランティアネットワーク 上ノ山幸子会長より、「被災された方の少しでもお役にたたせていただけましたら幸いに存じます」と女性用肌着300枚以上のご寄附のお申し出がございました。被災地のご希望もうかがい、宮城県と岩手県にお届けいたしました。

その後、お礼状をいただきましたのでここでご紹介させていただきます。



(秋田県・akiponからの作品)

イラスト・カット募集

平成25年7月号（健康の輪No.108）に掲載するイラスト・カットを募集致します。

花・動物・その他、何でも結構です。

締切は、平成25年5月10日（当会必着）です。

全国結核予防婦人団体連絡協議会事務局宛
〒101-0061 東京都千代田区三崎町1-3-12
TEL：03-3292-9288

